

四ヶ村棚田サポーター制度

「つなぐ棚田遺産」に選定され、村独自のイベントに取り組んでいる四ヶ村も例外ではなく、高齢化や後継者不足による耕作放棄地の拡大が懸念されている。『四ヶ村棚田サポーター制度』は、耕作放棄地の拡大という切迫した問題を解決すべく、地区外に住むサポーターの方々と協力しながら、四ヶ村の棚田及び棚田米の魅力を発信していくための取り組みで、地元の生産者により設立された「大蔵村棚田米生産販売組合」が中心となって実施している。

年会費2,000円でサポーターに登録すると、棚田米をお得に購入できるほか、四ヶ村で開催される様々なイベントに参加できる。イベントの内容としては、5月下旬の田植え体験、8月上旬（はたる火コンサートと同日）の生育状況確認、9月20日頃の稲刈り、11月下旬の棚田収穫祭などがある。

サポーターは現在、全国各地に30名程おり、特に仙台市のような都市部からの参加が多く見られる。イベントにはサポーター以外にも、村の関係者や大学生なども訪れており、地域や世代を超えた交流が生まれ、大変な賑わいを見せる。



普段農業に触れる機会がないので、農作業体験は新鮮で楽しかったです。
(東京都 女性)

サポーター
の声

知人から四ヶ村を教えてくださいました。
10年以上前から農作業体験に来ています。(宮城県 男性)

大学生と話したり、稲刈り後においしいものを食べたりするのが楽しみです。
(山形県 女性)

組合長の思い



大蔵村棚田米生産販売組合
組合長 須藤 敏彦さん

棚田での米作りは、平地の何倍もの手間がかかります。そこで、他産地との差別化を図り、四ヶ村の棚田のお米に独自の付加価値をつけるために生産組合を立ち上げました。組合の活動の一環として、村と協力し、普段農業に触れる機会の少ない方でも農作業を体験できるサポーター制度を始めました。サポーター制度が、みなさんが農業やお米、棚田に興味を持つきっかけになってくれれば嬉しく思います。

●お問い合わせ 大蔵村役場 産業振興課 農村整備係 TEL : 0233-75-2105 (内線 231・232)

棚田に外から風を吹き込む



～サポーター制度で地域の魅力を発信～

しかむら
四ヶ村の棚田(大蔵村)

棚田とは

棚田とは、山の斜面に築かれた階段状の水田である。棚田の役割は、米作りだけではない。階段状の地形は、雨水を貯め、洪水のリスクを低減するダム役割や、土砂の流出を抑え、国土を保全する役割を果たす。さらには、豊かな生態系を育むなど、多面的な機能を有している。

棚田を管理する地元の集落は、深刻な問題に悩まされている。棚田での作業は平地と比べて多くの労力が必要であり、それに高齢化や後継者不足が相まって、担い手の確保が困難となっている。また、耕作放棄地の拡大により、多面的機能の喪失や野生動物の行動範囲の拡大なども問題となっている。棚田を未来に引き継ぐためには、地域住民だけでなく、私たち一人一人の関心と協力が不可欠である。棚田への関心を集め、保全していくために、県内ではどのような取り組みが進められているのか、2地域の事例を紹介する。

四ヶ村の棚田

四ヶ村は大蔵村の中心部より南に位置した山間地域である。その名の通り、4つの集落の総称であり、「豊牧」、「滝の沢」、「沼の台」、「平林」で構成される。「四ヶ村の棚田」は、農林水産省により、「つなぐ棚田遺産」に選定されている。

地域のイベントとして、毎年8月に「四ヶ村棚田ほたる火コンサート」が開催されており、棚田とホタルの光が創り出す非日常的な空間で、演奏会を楽しむことができる。

